

1914年秋田仙北地震における由利郡の被害

－郷土誌邑知にみられる震災記録－*

秋田大学地域防災減災総合研究センター 水田 敏彦
北海道大学 鏡味 洋史

1. はじめに

筆者らは秋田県下の明治以降の被害地震について当時の被害調査報告書、新聞記事、郷土史料の文献調査を進め、被害の詳細および分布、行政機関の対応などの実態解明を進めている。1914年（大正3年）秋田仙北地震の由利郡の状況については、由利郡金浦町の行政簿冊を見出し、他の報告書には見られない震災対応を明らかにすることができた¹⁾。秋田仙北地震は震源に近い仙北郡・平鹿郡の被害が大きく由利郡は軽微な被害であったが、金浦町の行政簿冊の中に由利郡の被害が記載されている「由利郡震災之状況」²⁾が残されており、また、大内町の郷土誌「邑知」³⁾に震災記録を新たに発見することができた。大内町は由利郡で被害が集中した大正寺村の南部に隣接する町である。本報告では、これまで取り上げられることが殆どなかった由利郡の被害に着目し、これらの資料を中心にさらに由利郡の被害の状況を明らかにする。

2. 1914年秋田仙北地震と大内町の概要

1914年秋田仙北地震はM7.1の内陸地震であり、震央に近い雄物川周辺の低平地と横手盆地を中心に、死者94、負傷者324の人的被害や、全潰640、半潰575の住家被害が生じた。日本被害地震総覧⁴⁾に秋田県の郡市別被害一覧表が掲げられており、由利郡の被害は死者4、負傷者29、住家全潰18、半潰45等となっている。また、被害の概要を図1に示す。図には主な街道と由利郡で住家被害が発生した旧町村名を示し、大内町は境界を点線で表した。大内町は由利郡の北部にあり1889年（明治22年）の町村制の施行により、岩谷村、下川大内村、上川大内村が置かれ、1956年（昭和31年）これらの3村が合併して大内町となった。さらに、2005年（平成17年）の平成の大合併により本荘市および由利郡にあった他の6町と合併し現在は由利本荘市の一部となっている。

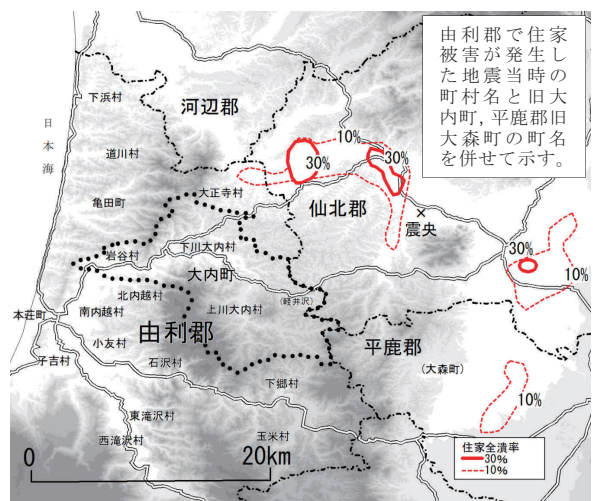


図1 秋田仙北地震の被害分布

*A Study of earthquake damage in Yuri district caused by the 1914 Akita Semboku Earthquake
－Earthquake records found in local magazine “Ouchi”－ by Toshihiko Mizuta and Hiroshi Kagami

3. 由利郡の被害が記載された資料

由利郡震災之状況²⁾：本報告書は謄写刷りのもので、①震動の状況及応急処置、②視察の状況、③交通耕地及用水路の被害、④罹災者の救助、⑤罹災者の状況の5項目よりなる。①～③に被害調査結果が報告されており、①の中に被害統計には表れない個別建物や道路・水路の被害状況、②の中に町村より報告を受けて由利郡が集計した町村別被害調査表、③の中に山崩れによる道路や水路の被害状況が掲載されている。また、巻末に「余録」があり、由利郡内で被害最も激烈であった大正寺村、下川大内村、上川大内村に由利郡長が実地踏査した際の被害状況が記されている。

新聞記事：秋田県の代表的な新聞「秋田魁新報」があり、他の報告書にない被害が読み取れる。

邑知³⁾：大内町の惨状を記した日誌や新聞記者の記録がある。内容については次章で述べる。

震災予防調査会報告：第82号の今村の報告⁵⁾のなかで「被害の統計」の項がある。秋田県内の詳細な統計があり、由利郡については家屋や人的被害の市町村別一覧表、一部集落別の住家全潰数の一覧表が掲げられている。

4. 大内町の郷土誌「邑知」に掲載の震災記録

「邑知」は大内町文化財保護協会刊行の郷土誌で最初の頁に『「邑知、オフチ」は「大内」の古名』とある。1975年（昭和50年）の創刊から年1回刊行され現在に至っている。1995年（平成7年）発行の第21号に上川大内村軽井沢出身の畠山九酒の日誌を取り纏めた「強首地震と大内町の被害－発見された大地震の記録－」³⁾を見つけた。「大内町軽井沢青年夜学会－畠山九酒の日誌の一節から－」と新聞記事を引用した「山ノ崩壊と溢水－大正3年3月21日の報道から－」の2項目4頁よりなり、他の文献には見られない大内町の被害状況などが記載されている。著者はアベツトム（阿部力）氏であり、1929年（昭和4年）由利郡大正寺新波生まれ、1947年（昭和22年）より上川大内中学校教師、以来33年間教師を務めその後1990年（平成2年）に出版された大内町史編纂委員などを務めている。本報告は大内町史の編纂から5年後に書かれている。

「邑知」について主な内容を『』で引用して示す。なお（括弧）内は注として著者のアベ氏が追記した個所である。始めに『現在まで「強首地震」の話はよく口伝としてよく聞くことがあったが、大内町の記録として書き残したものは初めてである』と述べている。続いて畠山九酒の日誌の一節が紹介されている。地震時の状況は『今日は（平鹿郡）大森町の市日なれば、いつもは遅るる我家なれども皆早々と臥床（寝床）を出でて〔中略〕炉をかこみて談笑に花を咲かせつ吁々（ああ）此一刹那（いっせつな）〔中略〕生の身は忽ち炉の上に払われたり〔中略〕釣鍵の茶釜のくつがえらるに、母上とハナエとの身にも怪我あるらし』とあり、また、被害については『身ははらばいて辛くも内庭に出づれど〔中略〕暫（ようや）くにして室に入りぬれば、千古無柱の破れ寺か、餓鬼の巢窟かの如く、あれにあれはてて、時計さえ5時を指したるまま止まり』と上川大内村軽井沢のミクロな被災状況が記載されている。次に『畠山九酒の日誌の一節はここで終わっているが、その後の状況を記したものは魁新聞記者「特派員、武塙（たけはな）三山」の記録から抜粋（ばっすい）したものとして記してある』と述べ第2項「山ノ崩壊と溢水－大正3年3月21日の報道から－」で内容を紹介している。『武塙三山は大正3年

3月19日から25日まで最大被害の現西仙北町強首や刈和野、震源地と言われた布又（ぬのまた）地区の惨状を自転車で駆け巡り精力的に取材し〔中略〕新波（現雄和町、当時由利郡内）を取材して下川大内村、上川大内村へ向かったのである。途中平岫へ来てその惨状を取材している』との書き出しで始まっている。表1に「山ノ崩壊と溢水—大正3年3月21日の報道から—」の記載内容を示す。なお、武埴三山による被害踏査記録は秋田魁新報の紙面に『激震地まで（一）～（七）』との見出しで3月19日から3月25日まで表れるが、掲載されている記事は仙北郡の激震地域に限られ「邑知」で紹介されている由利郡下川大内村と上川大内村の被害については報じられていない。

表1 「山ノ崩壊と溢水—大正3年3月21日の報道から—」の記載内容

取材地域	由利郡下川大内村，上川大内村
取材日時	大内町に足を踏み入れたのは地震発生後1週間経過した3月21日の日だった
被害状況	<p>下川大内村：田地40町歩の灌漑に要する水路に多大の故障。小栗山の地域に留関を建設し部落まで山麓に沿って水路を開鑿疎水した。太平山と称する高さ10丈の岳中腹より大亀裂下流に陥没して頂上に約3丈の断崖を見るに至った。其他無数の大亀裂を生じ断崖各所に聳（そび）えて惨憺たる光景である。芋川に沿った県道2丁の間の悉く陥落して通ずることが出来ない。</p> <p>上川大内村：家屋の被害よりも山林耕地の被害甚だ多く、其仙北郡に接近したる地方の山岳の崩壊殆ど無数にして就中小栗山の内畑（沢）羽広の内軽井沢の2小部落の如きは山岳の崩壊により溪流を阻止せられ数町歩の耕地は殆ど池沼に変じ、之れがための軽井沢の如きは生計と唯一の土地を奪われ今や全部落23戸殆ど耕地を失う有様である。殊に人家は何れも山麓に沿うて谷間に建設しあり、山の崩壊と共に溢水將に床上を襲わんとするものあり。</p>

5. 由利郡の町村別被害とその分布

由利郡震災之状況²⁾、邑知³⁾、震災予防調査会報告⁵⁾および秋田魁新報に記載の被害事項を当時の町村別に整理して表2に示す。震災予防調査会報告⁵⁾に掲載の被害統計は秋田県警察部調べ（3月20日午後2時現在）のものである。由利郡震災之状況²⁾の被害統計は、実数の違いが若干見られるが由利郡が町村ごとに集計した表を3月27日に秋田県へ報告したもので、住家の破損は大破・小破別、その他田畑、道路や斜面崩壊など他の報告に掲載されていない被災項目が集計されており併せて表中に斜字で示した。また、表2により被害の分布を示すと図2のようになる。由利郡の町村は境界を破線で表し、主な街道と河川の流路も示した。なお、表2に記載されていない町村名は（ ）内に示した。

表2 1914年秋田仙北地震における由利郡の町村別被害一覧

旧町村名	震災予防調査会報告 ⁵⁾ 【死/傷】《全潰/半潰/破損》 ※括弧内は住家全潰率	由利郡震災之状況 ²⁾ ：[震災]・邑知 ³⁾ ・新聞記事：[魁] 【死/傷】《全潰/半潰/破損》その他の被害(カ所)	現在
子吉村	【0/0】《0/4/4》	【0/0】《5/2/大破0小破85》 家屋倒潰数棟[魁]	由利本荘市
北内越村	【0/2】《3(2%)/8/19》 中館：全戸44，全潰3(7%)	【0/6】《3/9/大破7小破21》 中館：災害甚し[震災]	
本荘町	【0/0】《0/0/15》	【0/0】《0/0/大破5小破100》 被害少なかりし，当庁（※由利郡役所）階上階下の壁に亀裂若くは其剥落の被害頗る甚大[震災]	
鮎川村		【0/0】《0/0/大破2小破39》	
下郷村	【0/0】《1(0.2%)/0/0》 宿：全戸144，全潰1(0.7%)	【0/0】《1/0/大破2小破210》田6，宅地1，山林原野8 奥沢：道路石垣一ヶ所崩壊[魁] 稍々被害あり[震災]	

岩谷村	【0/0】《0/2/18》	【0/0】《0/3/大破 17 小破 30》	
上川大内村	【0/0】《0/4/15》	<p>【0/0】《1/8/大破 3 小破 400》田 66, 畑 10, 宅地 7, 山林原野 100, 道路決潰 4, 破損 36, 河川堤防破損 30, 橋梁破損 105, 川除 20, 樋管 50, 用水路 500, 溜池溝渠破損 45, 倒木 50, 山崩 150</p> <p>家屋の被害よりも山林耕地に被害甚だ多く其仙北郡に接近したる地方は山岳の崩壊殆んど無数, 山崩多く道路の交通を遮断, 水路閉塞から灌水, 人家は何れも山麓に沿ふて谷間に建設しあり山の崩壊と共に逸水將に床上を襲へんとするものあり[震災] 家屋の被害より山林耕地の被害甚だ多く, 人家は何れも山麓に沿うて谷間に建設し山の崩壊と共に溢水床上を襲わんとする[邑知]</p> <p>軽井沢: 山崩れ溪流遮られ灌水人畜に浸水, 生計上唯一の土地を奪はれ今や全部落 23 戸殆んど耕地を失ふ[震災] 山岳の崩壊により溪流を阻止耕地は殆ど池沼に変じ全部落 23 戸殆ど耕地を失う[邑知]</p> <p>畑沢: 山岳の崩壊に依り溪流を阻止せられ数丁歩の耕地は殆ど池沼に変し[震災] [邑知]</p>	
下川大内村	【0/0】《0/2/62》	<p>【0/0】《0/2/大破 15 小破 154》山崩 38</p> <p>家屋土蔵等破壊頗る多きも人畜の死傷したるものなし, 平地耕地約 50 余町歩に灌溉すへき用水線は数百間埋没又は大破損, 上川大内村に通する大曲街道山崩あり車馬行通全く断絶, 大平山と称する高さ数十丈の岳は中腹より大亀裂を生じ河流に陥没して頂上に約 3 丈の断崖を見る[震災] 灌溉に要する水路に多大の故障, 太平山中腹より大亀裂, 芋川沿県道悉く陥落通行断絶[邑知]</p> <p>平岫: 灌溉に要する水路に多大の故障[震災]</p> <p>葛岡: 芋川に沿ひたる県道約 2 丁の間は悉く陥落[震災]</p> <p>加賀沢: 神社の附属建物一棟倒潰, 人家に数戸の大破あり其他小破頗る多数に上り[震災]</p>	
石沢村	【0/0】《0/3/72》	<p>【0/0】《0/0/大破 3 小破 72》</p> <p>山内: 本荘街道石崩れたる通行支障なし[魁]</p>	
小友村	【0/0】《0/0/7》	【0/0】《1/0/大破 7 小破 49》	
玉米村	【0/0】《0/0/8》	<p>【0/0】《0/0/大破 0 小破 8》橋梁破損 1</p> <p>殆ど被害なき[震災]</p>	
東滝沢村	<p>【0/0】《2(0.7%)/7/48》</p> <p>曲沢: 全戸 51, 全潰 2(4%)</p>	【0/0】《2/6/大破 11 小破 11》	
西滝沢村	<p>【0/2】《1(0.3%)/3/23》</p> <p>森子: 全戸 64, 全潰 1(2%)</p>	【0/2】《1/0/大破 3 小破 70》	
南内越村	【0/0】《0/1/10》	【0/0】《1/0/大破 2 小破 24》	
亀田町	【0/0】《0/0/41》	<p>【0/0】《0/0/大破 4 小破 146》</p> <p>被害激甚家屋其他の建物の損傷多数あり[震災]</p>	
道川村	【0/0】《0/0/1》	【0/0】《0/0/大破 1 小破 5》道路破損 2, 橋梁破損 1	
大正寺村	<p>【4/25】《15(4%)/11/357》</p> <p>新波: 全戸 91, 全潰 14(15%)</p> <p>碓田: 全戸 48, 全潰 1(2%)</p>	<p>【4/21】《15/11/大破 40 小破 296》田 195, 山林原野 400, 道路破損 29, 橋梁破損 7, 山崩 505</p> <p>萱ヶ沢より中野又部落に通する里道約半里の間欠堰又は山崩れの為め大破壊を来し交通遮断[震災] 鍾子峠は大崩壊し岩石道路に塞かり人馬の往来絶えたり[魁]</p> <p>新波: 3 名圧死, 家屋全部傾斜[魁], 宿屋家屋の半は萱葺にして半は桎葺 2 階建なり当夜階上に宿泊せる旅客 4 人は無事なりしも階下に熟睡せありし家族 3 名桁下となり圧死, 当日既に起床し商品の準備中妻を屋外に逃れしめんと奔走中梁下となり圧死 1, 倒潰家屋 13 戸の内桎葺二階建は僅かに 1 戸にして其他は悉く茅葺にして何れも鴨居下より柱を折断せられあり[震災]</p>	秋田市
下浜村	【0/0】《0/0/8》	【0/0】《0/0/大破 0 小破 3》	

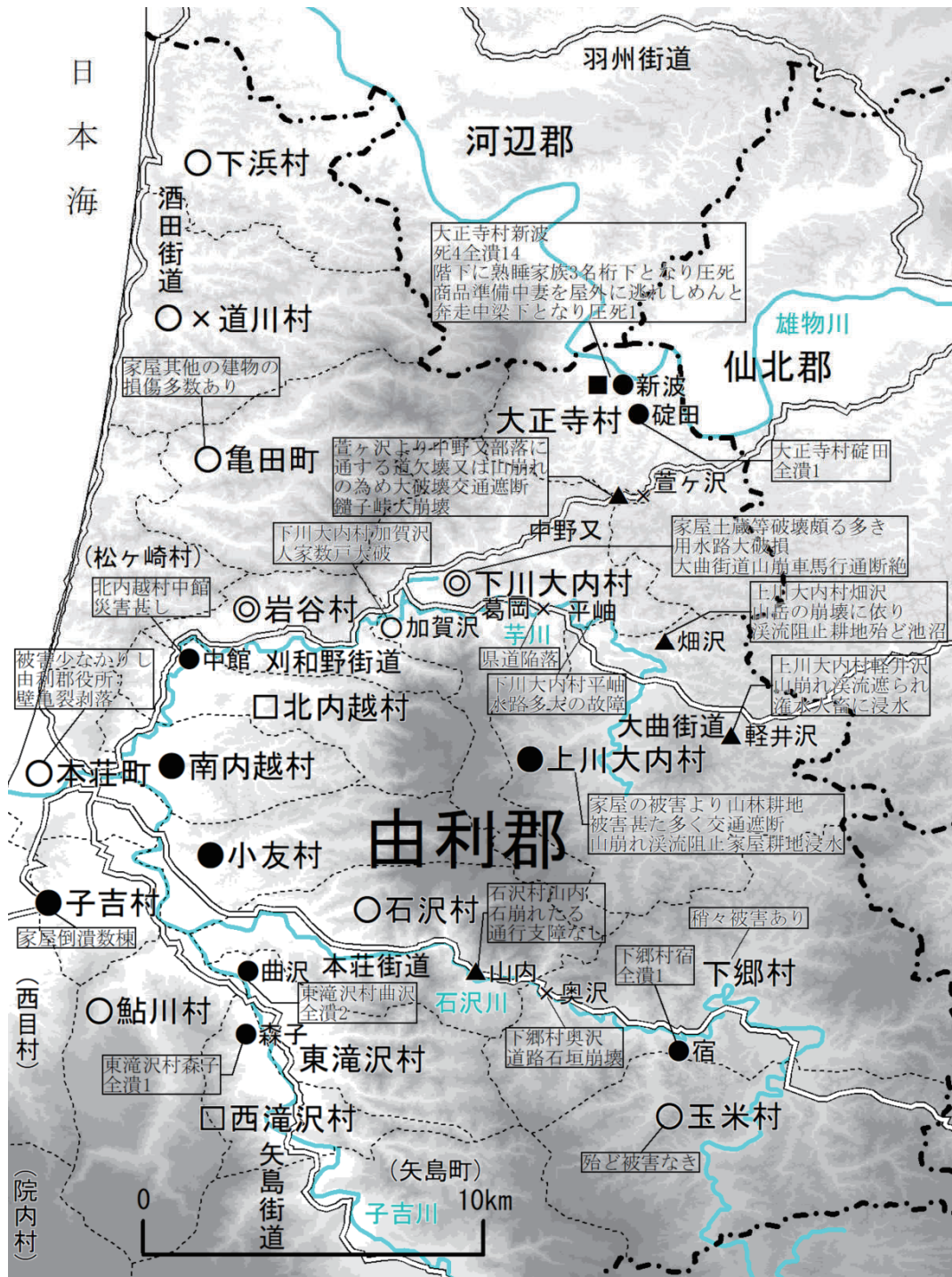


図2 1914年秋田仙北地震における由利郡の被害のまとめ
 (■死者 □負傷者 ●住家全潰 ◎半潰 ○破損 ▲斜面崩壊 ×道路被害)

6. まとめ

1914年秋田仙北地震で発生した由利郡の被害について、由利郡旧大内町の郷土誌、由利郡の被害報告書、新聞記事を参照して被害状況を整理した。明らかにされた主な項目は以下の通りである。

- 1) 大内町の郷土誌「邑知」³⁾には他の報告書にない上川大内村軽井沢のミクロな被災状況が記載されている。また、新聞紙面に掲載されていない秋田魁新報の記者武埜三山による下川大内村と上川大内村の被害踏査記録がある。
- 2) 由利郡が作成した「由利郡震災之状況」²⁾には他の報告書にない郡書記が報告した大正寺村、下川大内村、上川大内村の被害の詳細が記載されている。この他、震災予防調査会今村の報告⁵⁾に掲載されている被害統計は3月20日秋田県警察部調べのものが用いられているが、秋田県に報告した3月27日付けの町村別被害表がある。
- 3) 由利郡の被害統計に現れる大正寺村新波の死者4名の人的被害の発生状況が明らかにされた。全て地震直後の家屋倒潰により犠牲となっている。
- 4) 住家の全潰は震央に近い雄物川沿いの大正寺村新波で多いが、震央から35km程度の由利郡の広い範囲で被害が散見され、上川大内村、下郷村、北内越村、南内越村、小友村、子吉村、東滝沢村で報じられている。
- 5) 斜面崩壊に関する記事が多く、大正寺村、下川大内村、上川大内村で集中して発生していたことが明らかにされた。これらの斜面崩壊により灌漑用の水路や道路被害が報じられている。また、上川大内村では斜面崩壊による家屋の浸水被害も報じられている。

激甚な被害を受けた地域は調査研究が重点的に進められるが、それ以外の地域についても実際に起きた被害の履歴は、地域にとって軽微なものを含め将来の災害予測にとって貴重な情報であると考えている。また、他の町村についても同様の郷土史料が残されている可能性があり、引き続き郷土誌の発掘に努めていきたい。

参考文献

- 1) 水田敏彦、鏡味洋史：秋田県由利郡旧金浦町所蔵の行政簿冊にみられる震災記録－1914年秋田仙北地震を中心に－，東北地域災害科学研究，第50巻，pp.13-18，2014.
- 2) 由利郡：由利郡震災之状況，大正三年分事務簿，にかほ市教育委員会所蔵簿冊，16pp，1914.
- 3) アベツトム：強首地震と大内町の被害－発見された大地震の記録－，邑知，大内町文化財保護協会，第21号，pp.12-15，1995.
- 4) 宇佐美龍夫，石井寿，今村隆正，武村雅之，松浦律子：日本被害地震総覧，東京大学出版会，pp.265-268，2013.
- 5) 今村明恒：大正3年秋田県仙北郡大地震調査報告，震災予防調査会報告，82，pp.1-30，1915.